

前立腺がんについて

早期診断が何より重要 50歳以上はPSA検査を

生活の欧米化に伴い
日本でも増加傾向

「前立腺がん」は中高年の男性に多いが、年齢によるホルモンバランスの変化が関与していると考えら



▲ダヴィンチを使った前立腺がん手術の執刀医は、豊富な経験と実績を有する専門医師が担当する

れています。欧米では男性が発症するがんの中で罹患率が最も高く死亡率も2位になっています。近年、日本でも増加傾向にあり、背景には生活の欧米化があると思われます。

初期には自覚症状がほとんどなく、進行すると排尿障害や排尿時の痛み、血尿などが見られることがあります。さらに進行すると他の部位に転移し、骨に転移した場合は腰痛などが表れることがあります。

前立腺がん発見の手掛かりとなる腫瘍マーカーとしては、前立腺で分泌されるPSAというタンパク質の一種があります。血液検査でPSA値が4を超えている場合は前立腺がんの疑いがあります。ほかに直腸診、経直腸エコー、MRIなどでも診断を行います。実はそれだけでは前

立腺がんであるとの確定的な診断はできません。がんの有無と悪性度を正確に診断するためには、針で前立腺の組織の一部を採取する「針生検」という組織検査が必要なのですが、従来の検査法では疑わしい場所から正確に組織を採取することが難しいとされてきました。しかし前立腺がんの診断と治療についてはここ数年、大きく進化をしています。

最新鋭の生検装置で 高い精度の組織検査

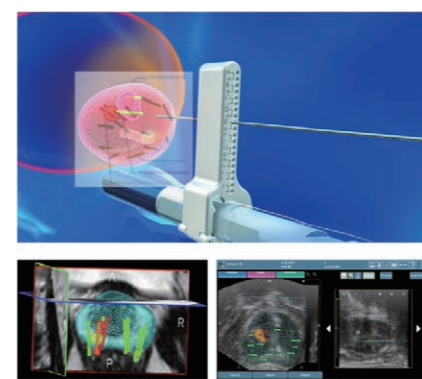
当院は前立腺がんに関して診断から手術まで一貫して世界標準の医療を提供することを目的に2018年に開院しました。最新鋭の検査機器と手術支援ロボットを導入していることが大きな特長です。



別府湾腎泌尿器病院
病院長 佐藤 文憲

profile

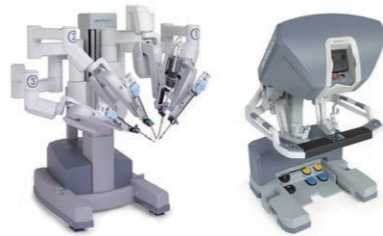
さとら・ふみのり/平成2年、大分医科大学(現・大分大学医学部)卒業。大分医科大学附属病院で助手、講師を経験後、米国マサチューセッツ総合病院・ハーバード大学客員研究員、帰国後、准教授。平成30年、大分大学特任教授。長年にわたる大学病院勤務を経て平成30年2月に別府湾腎泌尿器病院を開院し現在に至る。医学博士。日本泌尿器科学会専門医・指導医、ロボット支援手術プロクター認定医、日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡(ふくこうきょう)技術認定医ほか。



▲MRI画像と3D超音波像を融合したトリニティで前立腺の位置情報をナビゲーションしながら正確に組織採取

高精度前立腺ターゲット生検装置「トリニティ」は、高解像度のMRI画像と3D超音波像の融合によって、がんが疑われる場所から数ミリ単位の高い精度で組織を採取することが可能な検査機器です。国内で6番目、九州では初めて導入しました。体に対する負担(侵襲)は従来の針生検と変わりなく、「前立腺がんかもしれない」と悩んでおられる患者さんによ

り正確な診断とその診断に基づいた適切な治療方針を提案することができま



▲ロボット本体と操作台などで構成されるダヴィンチ。精密な操作性で体の深い部分での手術を容易にする

前立腺がんとは、断された場合、当院では手術を主体とした治療を行っています。大

とができ、従来の開腹手術より手術後の回復が早く、患者さんの体への負担が少なくなります。早期の方で機能維持のために神経を温存する場合、あるいは進行したケースで周辺のリンパ節を安全に広範囲に取る場合のように繊細な手術にもダヴィンチは力を発揮します。術後に起こりやすいとされてきた尿失禁もダヴィンチの術後には起こりにくく、3カ月で90%の方が尿もれのない状態に回復します。

ダヴィンチによる前立腺がんの摘出手術には保険が適用され、入院期間が約10日間です。当院では2019年に75例、2020年に82例という実績を残しており、県内一円また県外からも来院いただいています。

分大学医学部附属病院腎泌尿器外科の協力のもと、アメリカ発の腹腔鏡下手術支援ロボット「ダヴィンチ」を運用しています。県内では同病院に続いて2番目に導入したものです。

ダヴィンチ手術に際しては1cmほどの小さな穴を5〜6カ所開けるだけなので傷口が小さく、出血が極めて少なく、従来行われてきた自己血を使った輸血などを実施する確率が非常に低くなります。手術に伴う痛みや発熱もできるだけ少なくするこ



▲最先端の前立腺がん診療を求めて県内外から多くの患者が訪れる。前身の旧病院から継承した地域医療をも担う

患者さんに一言

前立腺がんの治療法は年齢や体の状態、意向などを総合的に判断して決定します。当院では高精度の診断と手術を主体とした治療を行っています。手術以外に薬物療法、放射線、重粒子線などを選択する場合もご紹介を行いますのでご相談ください。



病院長 佐藤 文憲

押さえておきたい チェックポイント

特有の自覚症状がないのが特徴
前立腺がんの早期には特有の自覚症状がなく発見しにくいので、早期診断が何よりも重要です。前立腺肥大症とは発生の仕方が全く異なっていて関連性は低いのですが、肥大症の症状である排尿障害や頻尿で来院してがんが見つかることもあります。50歳以上の男性は健康診断のときにPSA検査をすることをお勧めします。血液検査にオプションで入れることができます。PSA値が4を超えている場合は精密検査が必要になります。1以上4未満の方は年に1回、1未満の方でも3年に1回程度はPSA検査を受けるようにしてください。

DATA

別府湾腎泌尿器病院

病院長 佐藤 文憲

tel.0977-66-4111
https://bbuh.jp/

- 住所 / 別府市北石垣深町851
- 駐車場 / 62台
- アクセス / JR別府大学駅より徒歩3分

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	×	×
13:30~17:30	○	○	○	○	○	×	×	×

※土曜は9:00~12:30まで ※日曜・祝日、年末年始は休診 ※ネット予約/不可

診療科目

泌尿器科、内科、循環器内科、糖尿病内科、婦人科、麻酔科(局麻)、リハビリテーション科、放射線科

